門祖日隆聖人物語 第2回

550

日本が南北の朝廷に分かれて争った十四世紀。鎌倉時代末期から室町時代初期の南北朝時代。今月は、門祖日隆聖人のご実家である桃井家の人々が、その中でいかに生きてきたかをお話しします。

桃井家とその時代

門祖日隆聖人のご実家、桃井家は、清和源氏足利義兼の血筋を引く武家の名門で、上野国群馬郡桃井郷という土地を領土としたので桃井氏と呼んだのが始まりなんだ。源氏の中でも、足利、新田に次ぐ名門の一族なんだよ。

桃井の本家である尚義公は、新田義貞が鎌倉幕府へ争いを起こしたのに従い、各地で戦った。しかし、越前藤島の戦い（延元三年、一三三八）で義貞と共に戦死するんだ。

桃井の分家となる直常公は、足利の味方となり「鬼」と畏れられた武将で大きな手柄を立て、越中（富山県）の国を任される（一三四四～一三五一）。やがて足利尊氏と直義の兄弟間の戦い・観応擾乱（一三四九～五一）では直義の味方となり、直義死後は南朝方の有力な武将として各地で戦うことになる。しかし、応安四年（一三七一）幕府方の斯波、富樫の軍と越中五位荘（現在の富山県高岡市）で戦い、破れて直常公と、弟の直信公の行方はわからなくなるんだ。

桃井家以後に越中守護となった斯波義将公は、桃井家とは親戚関係で、観応擾乱までは共に戦った味方同士ということもあり、娘の益子様を桃井家に嫁がせ（永徳元年、一三八一）、これにより桃井家との戦いを終わりにしたんだな。

門祖聖人は、至徳二年（一三八五）父桃井尚儀公、母益子様の長男としてご誕生。弟の直之は、出家して真宗西本願寺派光明寺住職となり、父尚儀公は引退して「本光」と名乗ることになる。南北朝争乱の時代に、武士として活躍した桃井家だったんだが、尚儀公は、敢えて武士として生きる事をせずに、一族が仏門に入ることで、桃井家に関わる人々と、桃井家と戦い犠牲となった人々のご回向をされたんだよ。

年表

1318年	後醍醐天皇が即位
1324年	正中の変　倒幕の密謀露見する
1331年	天皇笠置山に潜伏　楠正成挙兵
1332年	天皇隠岐に流される
1333年	足利尊氏京都の鎌倉幕府軍を破る
	新田義貞鎌倉を攻め、鎌倉幕府滅びる
	後醍醐天皇が京都に還幸
1334年	建武の新政始まる
1335年	鎌倉幕府の残党による中先代の乱
	尊氏これを鎮めて天皇に背く
1336年	1月　尊氏破れて九州に落ちる
	5月　尊氏東上し湊川で天皇軍を破る　楠正成戦死
	8月　尊氏が光明天皇を擁立（北朝）
	12月　後醍醐天皇が吉野で南朝を樹立
1338年	新田義貞　越前で戦死
1349年	観応の擾乱　足利尊氏と直義兄弟の戦い
1392年	南北の両朝が合体する

桃井家最後の戦場